

平成28年8月吉日

関係各位

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
運 営 委 員 長 後 藤 文 男
受託者 みずほ信託銀行株式会社

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

さて、公益信託美原脳血管障害研究振興基金は、脳血管障害に関する研究振興を目的に、文部（現文部科学）大臣の許可を得て昭和56年に設立されました。

爾来、国内外の方々より、近年脳血管障害の研究において目覚ましい業績を挙げておられる研究者（臨床、基礎研究のいずれも可）をご推薦いただき、研究費（1,000万円）の助成を行って参りました。

このたび、平成28年度研究助成金（美原賞）候補者の募集を行うことになりましたので、同封いたしました下記の書類をご参照いただき、貴殿より研究助成金（美原賞）候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去にご推薦をいただき、惜しくも受賞されなかった方の再度のご推薦も差支えはありません。

また、本基金は推薦者・被推薦者の個人情報为本基金選考助成実施のために必要な範囲において取扱い、その範囲を超えて使用することは一切ありません。

敬 具

（同封書類）

1. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の趣意書
2. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の概要
3. 平成28年度研究助成金（美原賞）候補者の応募要項および推薦書
4. 平成27年度受賞者（松本 昌泰様）略歴、受賞記念講演抄録

以 上

趣 意 書

本研究振興基金は、脳血管障害（脳卒中）に対する研究を振興するため、国の内外を問わず、すぐれた研究者に重点的な研究費助成及び補助を行なうことを目的とする。

衆知のように、脳血管障害とガンの両疾患は、我が国の死亡原因の首位を争うものである。しかし、ガンの研究に対する社会的関心は頓に高まりつつあり、その研究者も既に膨大な数に達しつつある。これに反し、脳血管障害の研究の重要性はややもすれば看過されがちであるとしても決して過言でない。

しかも、脳血管障害の研究においては、その成因、予防、治療、社会復帰のいずれも複雑な問題を内包し、基礎研究、臨床研究、或いは社会医学的研究のいずれも極めて忍耐強い努力を研究者に要求するものである。

この公益信託基金の委託者美原博は、既に財団法人脳血管研究所及び付属美原記念病院を設立し、多年に亘り脳血管障害の成因、診断、治療、社会復帰等の研究に努力を重ねてきたのである。しかしながら、この疾患の研究はもとより一研究組織のよくする所ではない。従って、美原博、国の内外を問わず、より広い規模において、この疾患の研究に立ち向かう英知を育成する必要を痛感し、この疾患に取り組むすぐれた研究者に重点的に研究費助成及び補助を行なわんと決意したのである。

玄に、公益信託美原脳血管障害研究振興基金を設立し、研究を奨励し、医学の進歩と人類の福祉に貢献することを念願する所以である。

昭和56年4月作成
美原博（故人）

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」の概要

1. 基金名称 公益信託美原脳血管障害研究振興基金
2. 目的 我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。
3. 事業 脳血管障害に関する基礎的、臨床的研究に携わる研究者の研究に対し、助成金の給付を行う。
4. 当初信託財産 3億円
5. 委託者 (故) 美原 博
6. 信託管理人 武見 敬三 (参議院議員)
7. 運営委員長 後藤 文男 (慶應義塾大学名誉教授)
8. 運営委員 (五十音順) 荒木 信夫 (埼玉医科大学教授)
田村 晃 (一般財団法人富士脳障害研究所附属病院病院長)
赫 彰郎 (日本医科大学名誉教授)
美原 恒 (宮崎医科大学名誉教授)
吉田 洋二 (山梨大学名誉教授)
9. 主務官庁 文部科学省 (研究振興局学術研究助成課)
10. 受託者 みずほ信託銀行株式会社

**「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」
平成28年度研究助成金（美原賞）候補者応募要項**

1. 目 的

本基金は、我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。

2. 助成の対象

脳血管障害の基礎的、臨床的研究において目覚しい業績を挙げている研究者の研究。

3. 助成件数・金額

1件 1,000万円

4. 推薦方法

推薦者は、所定の研究助成金（美原賞）候補者推薦書に候補者^{お名前}氏名の他、必要事項を全て記入のうえ、下記の事務局あて送付してください。

＊ 候補者^{お名前}氏名欄には、必ず候補者の自署（サイン）および押印を、推薦者氏名欄には、必ず推薦者の自署（サイン）および押印をお願いします。

5. 募集期間

平成28年8月1日（月曜日）～平成28年10月28日（金曜日）（事務局必着）

6. 選考方法

本基金の運営委員会において決定します。

7. 研究助成金（美原賞）の贈呈

平成29年2月（予定）

8. 問い合わせ先および推薦書送付先

〒103-8670 東京都中央区八重洲1-2-1

みずほ信託銀行株式会社 リテール・事業法人業務部

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」事務局

電 話 (03) 3274-9210

F A X (03) 3274-9504

（注）1. 助成金は贈呈後の1年間に使用することを原則とし、使用期間が1年以上

の場合は、研究の進捗状況に関する中間報告（書式は任意）を事務局あて提出してください。

2. 研究助成金（美原賞）受賞者は、研究成果報告書（経過と結果）および助成金の使用状況についての収支報告書（領収書等を添付）を提出してください。また、専門誌等に研究成果を発表する際は、“公益信託美原脳血管障害研究振興基金より研究助成金を授与された研究である”旨を記載してください。
3. 研究助成金（美原賞）受賞者の、受賞記念講演抄録、写真、略歴ならびに業績集を当基金のホームページに掲載します。

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
平成28年度研究助成金（美原賞）候補者推薦書

公益信託
美原脳血管障害研究振興基金

御中

2016年 月 日

(推薦を受ける研究者の) ふりがな 氏名 上記英文名 生年月日 年齢	西暦 年 月 日 満 歳
所属機関 上記英文名	
職位・学位 上記英文名	
最終学歴	西暦 年 月 大学卒業
	西暦 年 月 大学院修了・退学
上記研究者を、貴基金研究助成金（美原賞）候補者として推薦します。 推薦者 ふりがな 氏名 印 (自署願います) 所属機関 職位 所在地 電話番号	

推薦理由

* 推薦者は、具体的に主要な業績を挙げてご推薦下さい。

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.

被推薦者調書

(被推薦者ご自身にてご記入願います。)

* 研究助成金を受けて行う研究テーマ

* 研究テーマに関する所要金額

* 研究目的

* 研究計画

被推薦者調書

* 主要文献（10 編以内）

被推薦者
(自署願います)

氏 名
所属機関
職 位
所 在 地
電話番号
E メール

印

略 歴

平成 27 年 12 月 25 日現在

氏 名 松 本 昌 泰 (まつもと まさやす)

生年月日 1952 (昭和 27) 年 2 月 13 日生

現 職 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 脳神経内科学 教授
〒734-8551 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号
独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 院長
〒573-8511 大阪府枚方市星丘四丁目 8 番 1 号
※独立行政法人地域医療機能推進機構と広島大学とのクロスアポイントメント
制度により併任

履 歴 昭和 45 年 3 月 徳島県立城南高等学校卒業
昭和 51 年 3 月 大阪大学医学部卒業
昭和 57 年 3 月 大阪大学大学院修了 (医学博士)
昭和 59 年 3 月 米国メイヨークリニック留学 (神経内科学教室 ; 2 年 4 カ月)
昭和 61 年 11 月 大阪大学助手 医学部第一内科
平成 2 年 10 月 米国コロンビア大学 客員助教授を併任 (3 年間)
平成 4 年 5 月 大阪大学助手 医学部神経内科併任
平成 9 年 4 月 大阪大学講師 医学部第一内科 (神経内科併任)
平成 11 年 4 月 大阪大学大学院助教授 医学系研究科病態情報内科 (神経機能
医学併任)
平成 14 年 4 月 広島大学大学院教授 病態探究医科学講座脳神経内科
(第三内科)
平成 24 年 4 月 日本学術振興会学術システム研究センター
主任研究員 (医歯薬学専門調査研究班) 併任 (3 年間)
平成 24 年 4 月 広島大学大学院教授 医歯薬保健学研究院応用生命科学部門
脳神経内科学
平成 27 年 11 月 星ヶ丘医療センター 院長
現在に至る

専 門 脳卒中学、脳循環代謝学などを中心に神経内科学及び老年病学

主な研究 テ ー マ	脳血管障害の病態究明と新たな診断・治療法の確立（基礎的には脳虚血に対する細胞応答現象の究明、臨床的には脳神経超音波法や各種脳神経画像診断法の臨床応用に関する研究）
学会及び 委員会等	世界脳卒中機構（World Stroke Organization）理事、日本神経学会理事、日本脳卒中学会理事、日本脳循環代謝学会理事、日本脳神経超音波学会理事、日本脳ドック学会理事、日本栓子検出と治療学会理事、日本動脈硬化学会理事、日本内科学会評議員、厚生労働省 薬事・食品衛生審議会委員（専門委員）、独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員、広島県医師会裁定委員、広島県地域保健対策協議会理事、日本脳卒中協会広島県支部 支部長 等
学会主催	第 40 回日本脳卒中学会総会（平成 27 年 3 月・広島）、第 24 回日本脳循環代謝学会総会（平成 24 年 11 月・広島）、第 21 回日本脳ドック学会総会（平成 24 年 6 月・広島）、第 22 回日本脳神経超音波学会総会（平成 15 年 4 月・大阪）、第 5 回日本栓子検出と治療学会（平成 14 年 11 月・広島）等
受 賞 等	松柏賞（徳島県立城南高等学校：昭和 45 年）、メイヨークリニック研究奨励賞（Department of Neurology, Research Award：昭和 63 年）、日本心臓財団研究奨励賞（脳卒中部門：昭和 63 年）、広島大学学長表彰（平成 23 年）
編集委員等	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases（編集委員）、Stroke 誌日本語版（編集副主幹）、分子脳血管病（編集幹事）等

第 35 回美原賞受賞記念講演 (2016 年 2 月 26 日)

「脳血管障害における分子バイオマーカーの意義」

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 脳神経内科学 松本昌泰

超高齢化社会の進展とともに、脳血管障害や認知症の発症が激増することが懸念されている。脳血管障害は死亡原因としての位置づけは低下してきているものの、一旦発症すると神経症状の後遺症、認知症、うつ、てんかん等の原因となり、寝たきりの最大原因とも成っている。なかでも脳梗塞の発症は加齢とともに激増することが予測されており、より有効な治療、予防法の確立は喫緊の課題である。このため、演者等は *in vitro* 及び *in vivo* の脳虚血モデル系を用いて脳の微小循環やグリア細胞、神経細胞などの虚血に対する細胞応答現象を究明し、虚血性神経細胞障害の新たな治療法を開発するべく研究を進めてきた。しかしながら、現在のところ最も有効な脳梗塞治療法は超急性期の血栓溶解療法や血管内治療法により一刻も早く虚血そのものを取り去る治療法であることが判明しており、その普及が極めて重要である。一方、脳梗塞の発症そのものを予防するためには、より効率的なその発症・再発予防法を確立する必要があるが、頸動脈超音波エコー法、MRI などの画像診断法の進歩とともに、脳梗塞発症予備群である脳梗塞危険因子を有する高齢者では、各種の無症候性脳血管障害（頭蓋内外の閉塞性血管病変、無症候性脳梗塞、脳微小出血、脳微小梗塞、虚血性白質病変など）が高率に捉えられるようになってきている。なかでも、脳の微小循環障害の存在は脳梗塞のみならず認知症の発症にも大きく関わるものと考えられ、その基礎病態としての内皮機能障害（動脈硬化の進行や血液・脳関門破綻などの微小循環障害に関与）やその脳実質細胞系への影響を分子レベルで捉える臨床的評価法の確立が極めて重要と思われる。また、演者等は非心原性脳梗塞の再発予防におけるスタチンの有効性を検証する臨床試験（J-STARS）の結果を報告したが、内皮保護効果が示唆されているスタチンには脂質低下作用以外に、炎症のバイオマーカーとして知られる hsCRP を低下させる作用などが知られており、J-STARS のサブ解析でもその効果につき検証を進めている。

そこで本研究では、多数例で容易に測定可能な新規の分子バイオマーカーを確立し、脳梗塞や血管性認知症発症リスクの層別化とその進展予防に資することを目的に、以下の研究を計画している。すなわち、頸動脈エコー検査を実施する脳血管障害症例または脳血管障害の危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）を有する症例を対象とし、FMD による血管内皮機能検査、MRI などによる無症候性脳血管障害の評価（無症候性脳梗塞、白質病変、脳微小出血などの有無、程度）、認知機能検査（MMSE など）などを実施し、同時に末梢血リンパ球または口腔内粘膜細胞より抽出した DNA テロメア長および G テール長を測定、さらに採取した血液サンプルよりマイクロ RNA を計測する（広島大学・田原栄俊教授との共同研究による）。以上の方法により計測したデータを分析するとともに、脳血管障害の臨床病型や内皮機能と新規バイオマーカーであるテロメア G テール長やマイクロ RNA の意義を明らかにする。